ご挨拶

高専シンポジウム協議会長
久留米工業高等専門学校長
上　田　　孝

高専シンポジウムは、九州沖縄地区で平成 3 (1991)年度から毎年開催されている「九州沖縄地区高専フォーラム」が母胎となって、久留米高専の鳥井昭美名誉教授（当時、工業化学科教授）の呼びかけにより、平成 7（1995）年度に第 1 回が久留米で開催されました。以来、開催校のご理解を得て、各地の高専の有志教員で構成する高専シンポジウム協議会と開催校との共催により、毎年持ち回りで開催され、今回で 20 回目を迎えます。

人に譬えれば成人となる記念すべきこの第 20 回の高専シンポジウムが、初の北海道での開催となりましたことは誠に慶びに堪えません。開催に当たり、大変ご多忙にも関わりませず、多大のご理解ご尽力を賜りました函館工業高等専門学校の岩熊敏夫校長先生、小林淳哉物質環境工学科教授をはじめ教職員の皆様に厚く御礼申し上げます。

また、今回から（独）国立高等専門学校機構並びに豊橋・長岡の両技術科学大学の格別のご理解を賜り、ご後援を戴きましたことを感謝いたします。

高専シンポジウムは、高専生の研究成果の発表並びに学生及び教職員の交流の場として、西日本を対象として開催された第 1 回以降、参加校のエリアが徐々に拡大し、発表件数も増え、分野も広がってきています。また、近年は、高専と地域・企業との連携を深める機会としても充実されてきています。

今回の高専シンポジウム in 函館では、高専の本科・専攻科の学生や教職員による研究発表に加え、特別講演や我が国の教育において今日重要な課題となっているアクティブラーニングに関する函館高専の先進的な取組成果等の一般公開も行われ、時宜を得た有意義な企画となっています。また、高専シンポジウム創立 20 周年記念講演も予定されています。

お忙しい中、講師並びに特別企画の展示をお引き受けくださいました各位に感謝申し上げます。

この高専シンポジウムを契機として、参加された学生の皆さんが発表力を磨き、更に研究を深められますとともに、より多くの地元や企業の方々が高専について理解を一層深められますことを願っております。

最後になりましたが、第 20 回高専シンポジウム in 函館の開催にご支援、ご協力を賜りました関係諸機関の皆様方に深謝し、今後とも高専シンポジウムへのご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第 20 回高専シンポジウム 実行委員長挨拶

函館工業高等専門学校長
岩熊　敏夫

高専シンポジウムを、北海道で初めて、函館の地で開催させていただくことは、主催校として大変光栄なことであり、皆さまを心より歓迎いたします。

1996 年に久留米工業高等専門学校で第 1 回が開催されてから、今回は丁度 20 回目の節目を迎えます。今やこのシンポジウムは、全国の高専生の研究発表と交流の場として定着してまいりました。これまで高専シンポジウムの発展に携わられた多くの方々に、心より感謝いたす次第です。

今大会では約 210 件の口頭発表と約 130 件のポスター発表が予定されています。機械、電気電子、情報通信、建築・土木、化学から環境、生物まで、幅広い分野にわたり発表が行われます。また、高度化再編からアクティブラーニング・教育の可視化・グローバル化など、教育改革の流れを受けて、数多くの工学教育に関する発表が組まれております。単一日で開催されるシンポジウムとしては非常に規模の大きいものとなりますので、私どもとしましても、運営には万全を期して参る所存です。

函館は幕末の 1859 年に、我が国初の国際貿易港の 1 つとして開港しました。爾来国際色豊かな観光都市として知られ、また、青函連絡船、青函トンネル、そして北海道新幹線の開通へと北の玄関口としての機能を果たしてきました。一方で、海洋と水産業への多角的な取組を目指し、産学官連携で函館マリンバイオクラスター形成事業などへ取組んで来ました。本校も、唯一の工学系教育研究機関として参画しておりますが、この事業への取組について、函館地域産業振興財団より特別講演をいただくことになっております。

今年は高専制度発足から 52 周年となります。繰り返しになりますが、現在、高等教育機関および初等・中等教育機関は大きな改革期を迎えています。函館高専は 2013 年度より、技術の高度化・グローバル化に対応すべく新学科をスタートさせたところです。モデルコアカリキュラム、到達度評価も積極的に取り入れ、ICT 教育、アクティブラーニングにも取組んでおります。

今大会では一般公開の特別企画として、企業展示ブースおよび工業技術センター成果物の展示、そしてアクティブラーニング成果物の展示を行う予定としております。多くの学生、教職員の皆さんに参加いただき、ご自身の成果発表と活発な意見交換の場としていただくことを期待しております。

祝　辞

独立行政法人国立高等専門学校機構
理事長　　小　畑　秀　文

第20回という節目を迎えました高専シンポジウムが「第20回高専シンポジウムin函館」として、北海道で初めて開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

高専シンポジウムは、久留米高専の提唱に賛同された高専有志教員で組織する高専シンポジウム協議会と開催校との共催により、毎年持ち回りで開催されております。協議会メンバーの長年にわたる自主的な熱意ある取組とこれまでの開催校の校長及び教職員の方々、並びに今回の開催に当たられました函館高専の岩熊校長をはじめ教職員の方々のご尽力に敬意を表します。

さて、高等専門学校は、日本の高度経済成長に伴う中堅技術者の育成という産業界の強い要請に応えて、昭和37年に新しい高等教育機関として創設され、今日まで半世紀にわたり有為な実践的技術者を育成して社会に送り出し、産業界をはじめ各界から極めて高い評価を得ております。

しかしながら、今日、日本の産業構造の変化、科学技術の高度化、更にはグローバル化の進展など、我々を取り巻く環境は日々動き、急速に変化していく中で、実践的な技術力に加え、創造力とコミュニケーション能力を兼ね備えた国際的に活躍できるイノベーション人材が強く求められております。高専生の皆さんには、高度な専門性とともに幅広い知識と外国語を含めたコミュニケーション能力をしっかりと身につけて社会に出ていくことが期待されています。国立高等専門学校機構といたしましても、産業界や地域社会のニーズに応えた人材を育成できるよう、学科の再編や高度化、モデルコアカリキュラムの導入による教育の質保証の確保、教職員の資質向上、教育研究施設・設備の整備や全国KOSEN研究ネットワークを通じた教員の連携による研究、海外インターンシップや国際交流の機会の拡充などを図り、高専教育・研究の充実に努めております。

参加学生の皆さんが、本シンポジウムを契機として、プレゼンテーション力を更に高め、他高専の学生との活発な討議を通じて、相互の研究内容を深化させるとともに交流を深められますことを期待しております。

また、今回のシンポジウムでは、高専生による研究発表のほかに、高専シンポジウム創立20周年記念講演、特別講演、アクティブラーニングを推進するために開発した教材等の展示、企業及び工業技術センターによる特別展示等も予定されております。これらは、多くの方々に高専をより深く理解していただくための良い機会になるものと期待しております。

最後になりますが、本シンポジウムの開催に当たり多大なご尽力を頂きました関係諸機関の皆様方に感謝を申し上げるとともに、今後とも高専教育に対する一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。